

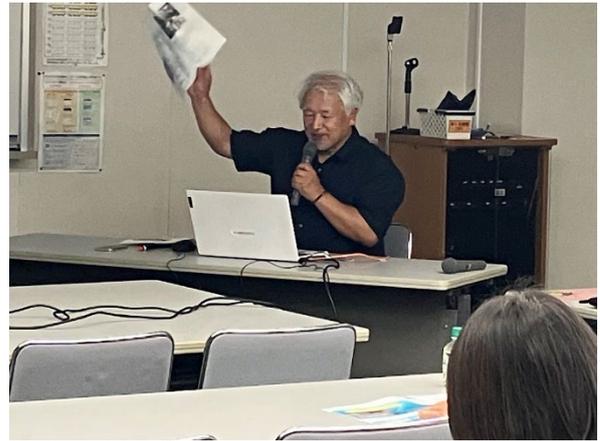
委員会活動 報告書

中国本部防災委員会

事業名称	廿日市市市民活動センター「2025年度 協働によるまちづくり」 第1回災害から身を守るための防災教室「災害避難所の実態と今後のあり方」
実施時期	2025年6月14日(土) 14:00~16:00
実施場所	廿日市市市民活動センター 2F 第1研修室
実施	広島県災害復興支援士業連絡会、日本技術士会中国本部防災委員会
参加者	37名(地域住民他15名、士業連絡会7名、オンライン16名)
講師	公益社団法人 広島県建築士会災害対策委員会 北本拓也、塚田忠則、宮迫勇次
事業内容 と感想	<p>2025年度に廿日市市市民活動センターで、「第1回災害からの身を守るための防災教室」を開催した。講演の題目と講師及び内容は次の通りである。</p> <p>1)「避難所ではどんな生活? 避難所はどのように運営するの?」 広島県建築士会 北本拓也</p> <p>2)「災害発生から避難所に PPS (避難所用紙の間仕切りシステム) が整備されるまで」 広島県建築士会 塚田忠則</p> <p>3)「災害避難所の実態と今後のあり方」 広島県建築士会 宮迫勇次</p> <p>4)「PPS 組み立て実習」 指導 広島県建築士会</p> <p>1) 広島県建築士会の北本先生から、東日本大震災後の気仙沼市鹿折中学校体育館避難所で、被災約2ヵ月後に避難所運営に1週間支援した内容を報告されました。避難者210人の生活の様子、食事の内容、避難所運営での注意点などを詳細に説明されました。特に医療・感染対策、寒さ対策、役に立つ生活用品などを紹介された。避難所は行政はじめ各種団体からの様々な支援で成り立っているとのことでした。</p> <p>2) 広島県建築士会の塚田先生から、避難所で使う PPS が2014年8月の広島豪雨災害で初めて導入するのに対して抵抗があり、苦勞されたお話を聞きました。2018年7月の西日本豪雨災害では、7月6日の災害発生後7月13日には PPS 組立てを実施され、現在「PPS 組立プロジェクト」に86名のメンバーを擁し、災害時に活躍されているとのことでした。PPS については、広島市と広島建築士会、VAN (ボランティア・アーキテクト・ネットワーク) が協定を結び今後の災害に備えています。</p> <p>3) 広島県建築士会の宮迫先生から、避難所での PPS 組立ての避難者の区画の基本的な考え方、紙管間仕切りの利活用の実態報告、仕組み・組み立て方の紹介、体育館なでの間仕切り割付計画事例等の詳細な説明がありました。</p> <p>4) PPS 紙管間仕切りの組立て実習は、実際に円筒の紙管(2m)を使った間仕切り作成を講習会参加者で作成しました。紙管間仕切りは、柱が比較的大きな円筒な段ボールで、柱の上部に2方向の穴をあけ、細い円筒の段ボールで支える(梁)仕組みで、間仕切りが完成します。初めての人も皆さんで協力すると割と簡単に組み立てることができました。また、布で周囲を覆い、個人や家族の様子を簡易に仕切りすることができます。さらに、段ボールによる簡易ベッドも組み立てました。少し力があるようでしたが、安定したベッドとして使えるようで好評でした。誰でもできる PPS 組立ては避難所で活躍しそうです。 以上</p>



広島県建築士会 北本拓也先生



広島県建築士会 塚田忠則先生



広島県建築士会 宮迫勇次先生



会場（講義）の様子



PPS 紙管間仕切りの作成実習（2m×4m）（柱、梁を組立て、布で覆い完成）の様子



簡易ベッド（段ボール）の作成実習（段ボールを重ねて使い安定）